

「みんなで守ろう下水道」

入賞
愛川町立中津小学校

おおの な お
大野 奈央

「うっ、このニオイ。」

これは、私が下水道のことを何も知らなかった時、お姉ちゃんのおともで下水しよ理場へ行って思ったことです。今まで一度もかいたことのないこのニオイは「下水しゅう」とよばれるもので、下水道管を通じて下水しよ理場に集められた、家庭や工場などのよこれた水のニオイということがわかりました。

4年生になって学校のじゅ業で下水道の役わりと仕組みについて学んだ時、私たちが使ってよごした水をび生物がきれいにしているということを思い出しました。そして、下水道についてくわしく知りたいと思い、横はまで行われた下水道てんへ行ってきました。

下水道てんの会場には、マンホールを作っている会社や下水道管のメンテナンスをしている会社など、たくさんの団体や下水道を管理する地方自治体がブースを出していました。

私は、下水しよ理場の人だけが下水道を守っていると思っていたので、下水道に関わる団体が多いことにとてもおどろきました。

そして、いろいろなブースを周って見たり聞いたりしていくうちに、じゅ業で学んだことよりもたくさんを知ることができました。

私たちは、気持ちよく生活をするためにたくさんの水を使っています。使ってよごした水は、下水しよ理場で半日以上もかけてきれいにしているそうです。

私は、薬で水をきれいにするのではなく、時間をかけてび生物の力できれいな水にするという方法を不思議に思い、たんだの人にしつ問してみました。すると、

「薬で水をきれいにするのはかん単だけど、強い薬できれいになった水を川や海に流すと生き物たちが死んでしまいます。下水しよ理の仕組みは、自然の力で水をきれいにする方法をまねしているから、もともと川の中に住んでいるび生物に手伝ってもらっているのですよ。」

と、答えてくれました。

私はその話を聞いて、び生物は身近な所において、水をきれいにしてくれるお助けマンのようなそんざいだなと思いました。そして、下水しよ理場の反のうタンクの中でび生物が元気に力を発きできる方法を考えました。

それは、下水に流れこむひどいよこれをへらすことだと思えます。

例えば、せっけんや洗ざいを使いすぎない、食きよこれなどの油はいらなくなった紙やぬのでふきとってからあらうなどです。

私にできることはかぎられてしまうかもしれませんが、よこれた水を出さないようにすることが下水道を守ることにもつながると思えます。

下水道は、地下を休むことなくずっと流れていて、目立たないけれどたくさんの仕事をしています。ひとりひとりが流れていく水にも気を配って、水を大切に使わなければいけないと思いました。